

# 「住民日本一」の滝沢市を実現するために — 地方政府の時代における地域コミュニティの考え方 —



長瀬光市

慶應義塾大学大学院  
政策・メディア研究科 特任教授

# 1. 低成長・成熟化時代における自治体の課題

## ① 人口減少&生産年齢人口の減少

人口減少	1億2800万人 (2010)	➡	9913万人 (2048)
一人暮らし世帯の増加	32% (2010)	➡	37% (2035)
高齢者世帯の増加	31% (2010)	➡	41% (2035)

||

担税力の低下、福祉・医療・保健・施設需要の増加

## ② 社会資本の老朽化

- ・ 公共施設、道路・橋梁・上下水道等の社会寿命・物理的寿命に対応した更新・維持
- ・ 限界集落の出現・広域に広がる社会資本の維持

## ③ 産業基盤の脆弱性

- ・ 産業モデルの転換

## ④ 地域社会（地域コミュニティ）の持続性の危機

## ⑤ 社会活動の減少

- ・ 社会関係資本（ソーシャルキャピタル）の蓄積を脅かすリスク



- 多様化・複雑化する市民ニーズや社会インフラへの投資と慢性的な財政逼迫という、矛盾した状況に対応する「新しい公共モデル」が必要
- 経済成長を前提としない社会構造、地球温暖化等に伴う地域産業や生活モデルの転換が必要
- 様々な根拠（エビデンス）に基づく政策転換と経営システムが必要

## 2. 地方の時代における地域コミュニティ（住民自治）の考え方

これからの地域コミュニティ（地域社会）は …

- 地域に誇りを持って「一生住み続ける」ために、地域の「**真の豊かさ**」＝「**幸福度**」を追求すること
- そのためには、暮らしやすさ、幸福感、生活価値、働きやすさなどの実現に向けて、様々な自助・共助による地域社会活動の成果を、生産性高く実現していくこと
- 地域社会活動により、地域の絆・つながり・信頼性が醸成され、ソーシャルキャピタルを高めていくこと

**住民自治とは、自らが地域のことは、住民自らの意思で決定し、その成果についても責任を持つこと**

### 3. 全国の町内会・自治会などの実態と動向



全国の町内会・自治会などの実態

全国の町内会・自治会数

296,770団体

町内会：65,685団体  
自治会：114,222団体  
その他：116,863団体  
(部落会・区会など)

一団体の平均人数・世帯数

約400人、約100世帯

平均加入率

全国平均で約75%



課題は持続可能性

- ・ 加入率が経年的に減少傾向
- ・ 組織の高齢化

## 平均的な町内会・自治会などの組織

組織名	組織規模	活動領域	構成員
全国自治会連合会 (31都道府県が加入)	全国に1組織	全国	自治会連合会長等
都道府県自治会連合会	都道府県に1組織	都道府県	市町村連合町内会長等
市町村連合町内会	市町村に1組織	市町村全域	学区連合会長等
学区連合町内会	3000~4000 世帯	小学校区	町内会長等
単位町内会 (町内会)	150~200 世帯	町内会区	地域住民
班・組織	10~20 世帯	町内会区	地域住民
世帯	1世帯	—	個人

※組織名は地域により名称が異なる場合がある

平均的町内会・自治会の過去と現在・これから

領域	過去	現在
社会的秩序	維持されていた	悪化してきた
地域力 (教育力、防犯力等)	強かった	弱くなってきた
近隣との コミュニケーション	顔見知りで助け合いの 風土があった	コミュニケーションを とることが減少してきた
町内会活動への参加	近隣との協調のため 義務的に参加することが 多かった	義務的な参加を強いられ ることが減少してきた
プライバシー保護	あまり考慮されて いなかった	保護されてきている



これから

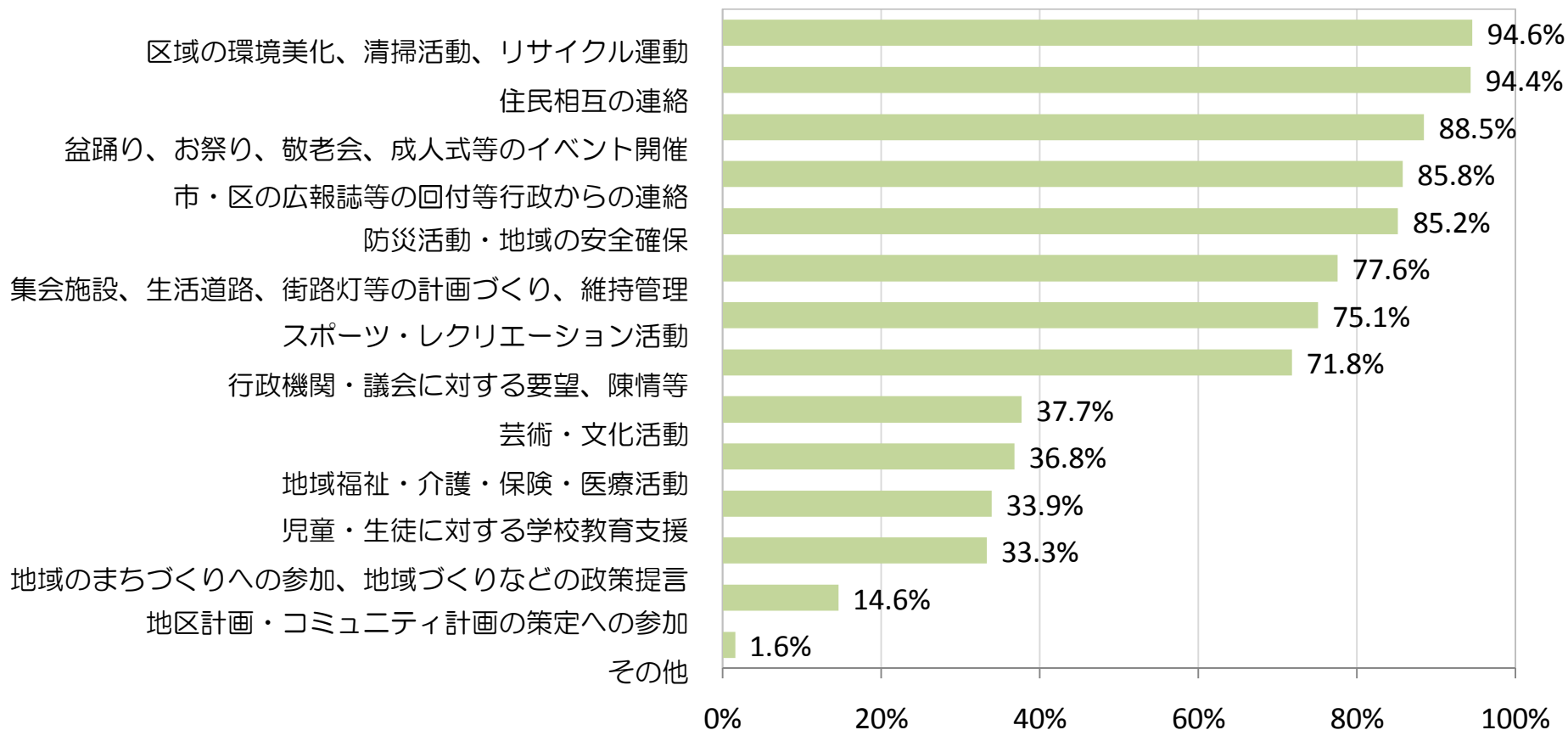
- ・ 住み続ける
- ・ 生活環境の維持・向上
- ・ 地域まちづくり
- ・ 絆・つながりの強化
- ・ コミュニティの強化
- ・ 地域社会の幸福度の追求



住民自治の追及

## 全国の町内会・自治会の意識動向

### 多岐にわたる町内会・自治会の活動

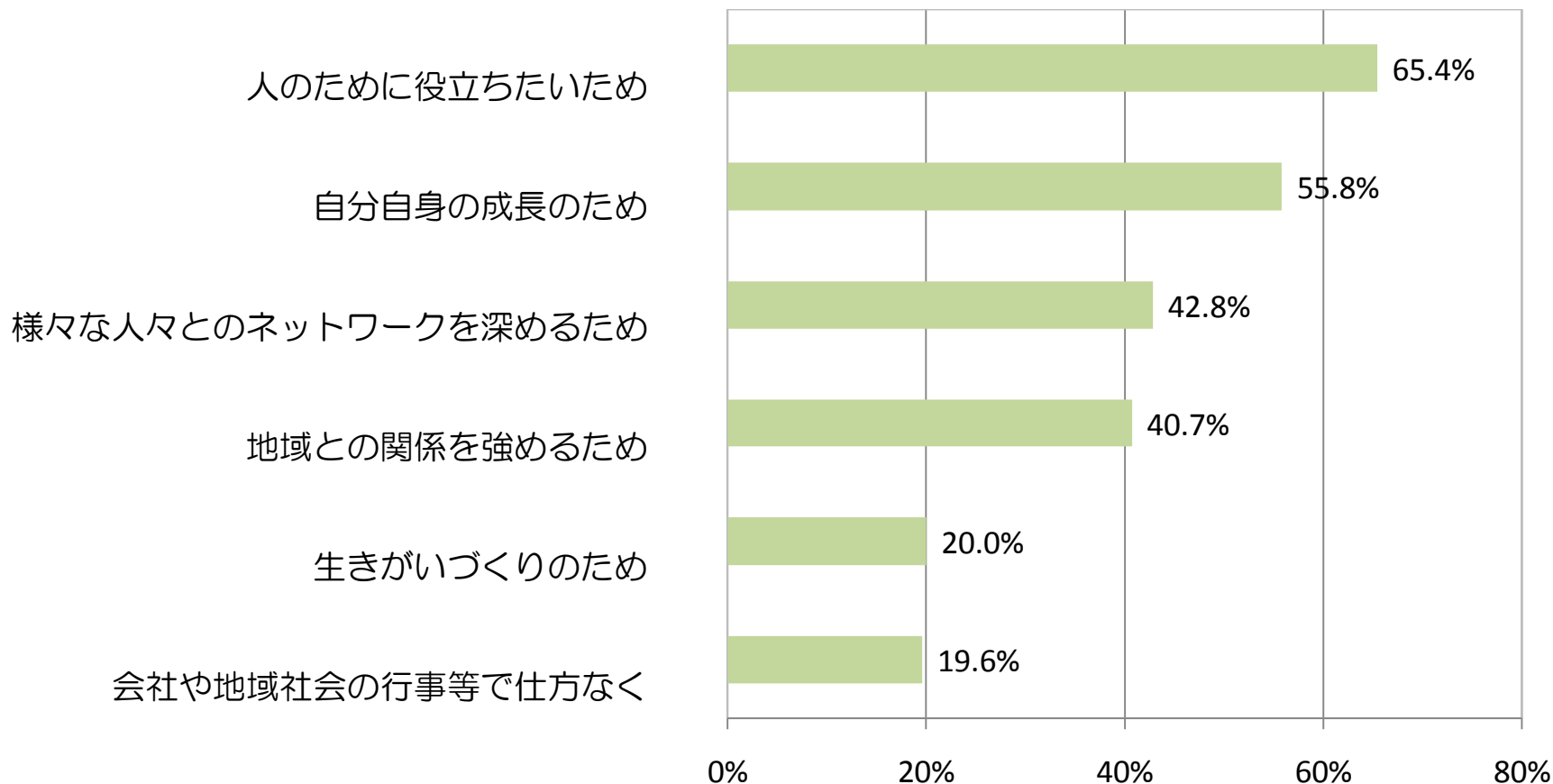


## 町内会・自治会活動から得られる人のつながり

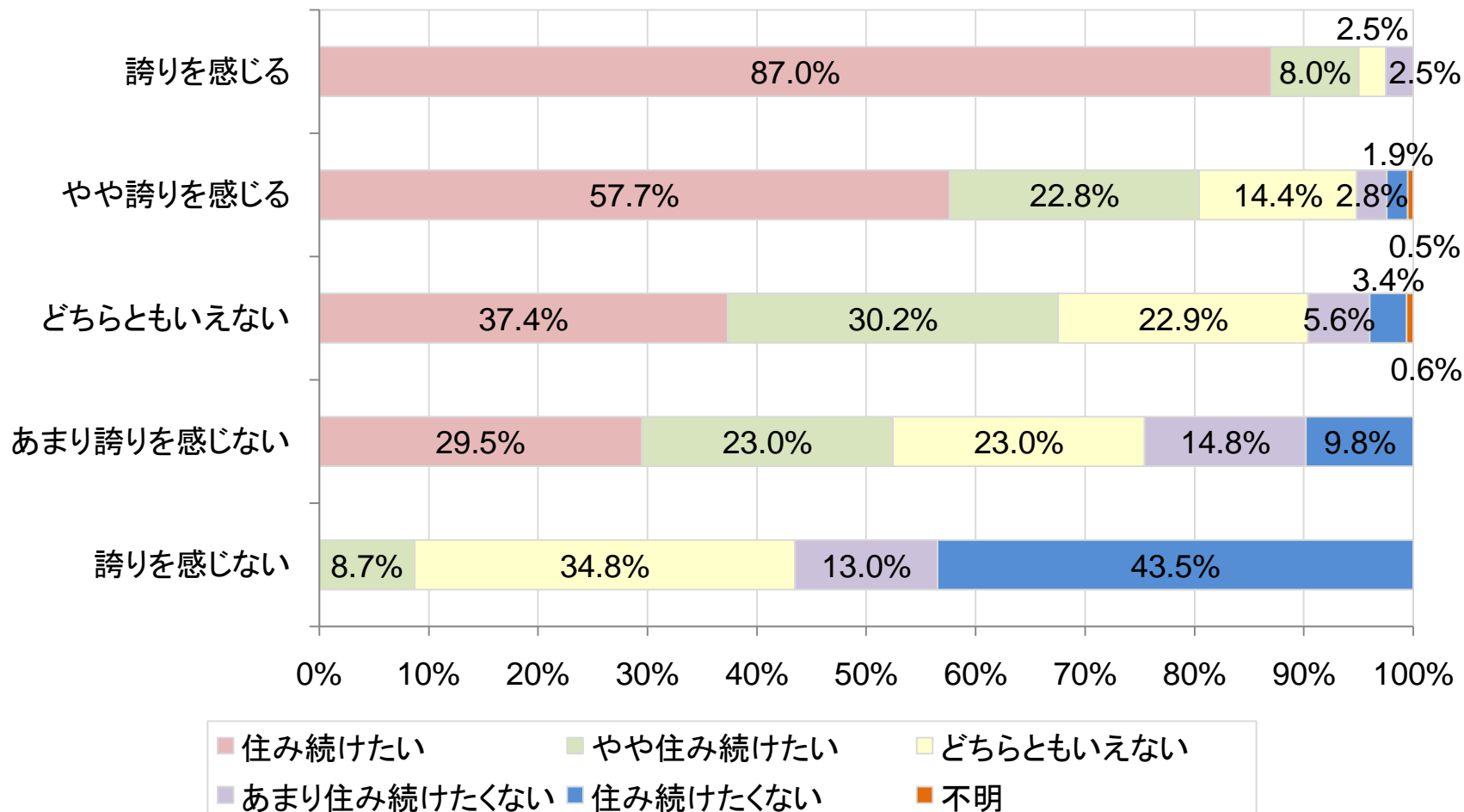
年代	1位	2位	3位
20歳代	地域のさまざまな人との つながりができた (21.6)	地域・社会に対する貢献ができた (17.7)	達成感・充実感を味わえた (14.7)
30歳代	地域のさまざまな人との つながりができた (24.8)	地域・社会に対する貢献ができた (14.1)	価値観を共有できる仲間ができた (11.8)
40歳代	地域のさまざまな人との つながりができた (24.0)	地域・社会に対する貢献ができた (13.6)	知識やノウハウが豊かになった (12.8)
50歳代	地域のさまざまな人との つながりができた (21.4)	地域・社会に対する貢献ができた (16.3)	価値観を共有できる仲間ができた (12.6)
60歳代	地域のさまざまな人との つながりができた (21.2)	地域・社会に対する貢献ができた (15.2)	価値観を共有できる仲間ができた (14.1)
70歳 以上	地域のさまざまな人との つながりができた (24.0)	地域・社会に対する貢献ができた (15.9)	価値観を共有できる仲間ができた (11.8) 知識やノウハウが豊かになった (12.0)

※出展:総務省「地縁による団体事務の状況に関する調査2003」

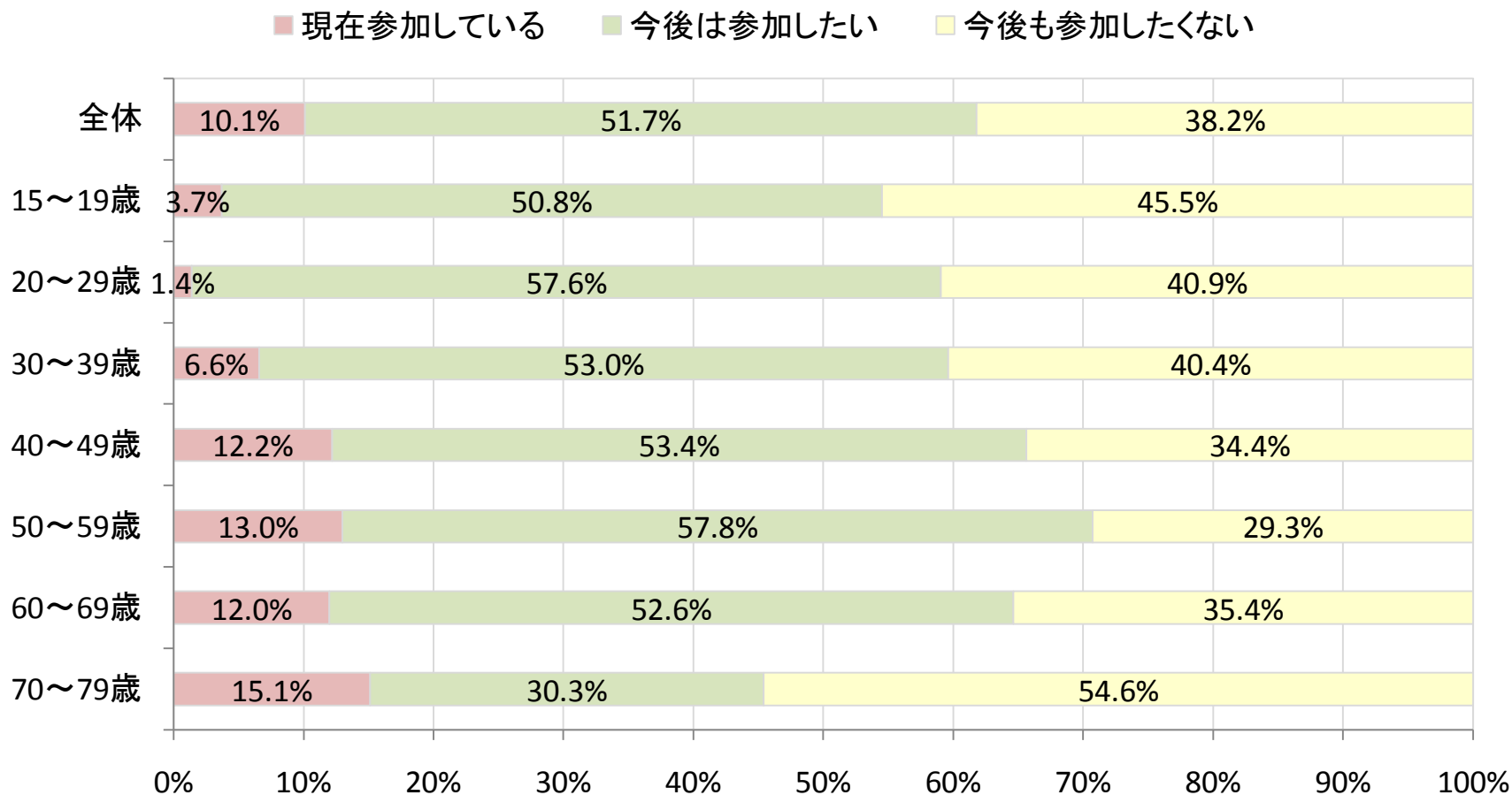
## 活動は自分のためでもあるボランティア



## 住む都市に誇りを感じている人は住み続けたいと思う

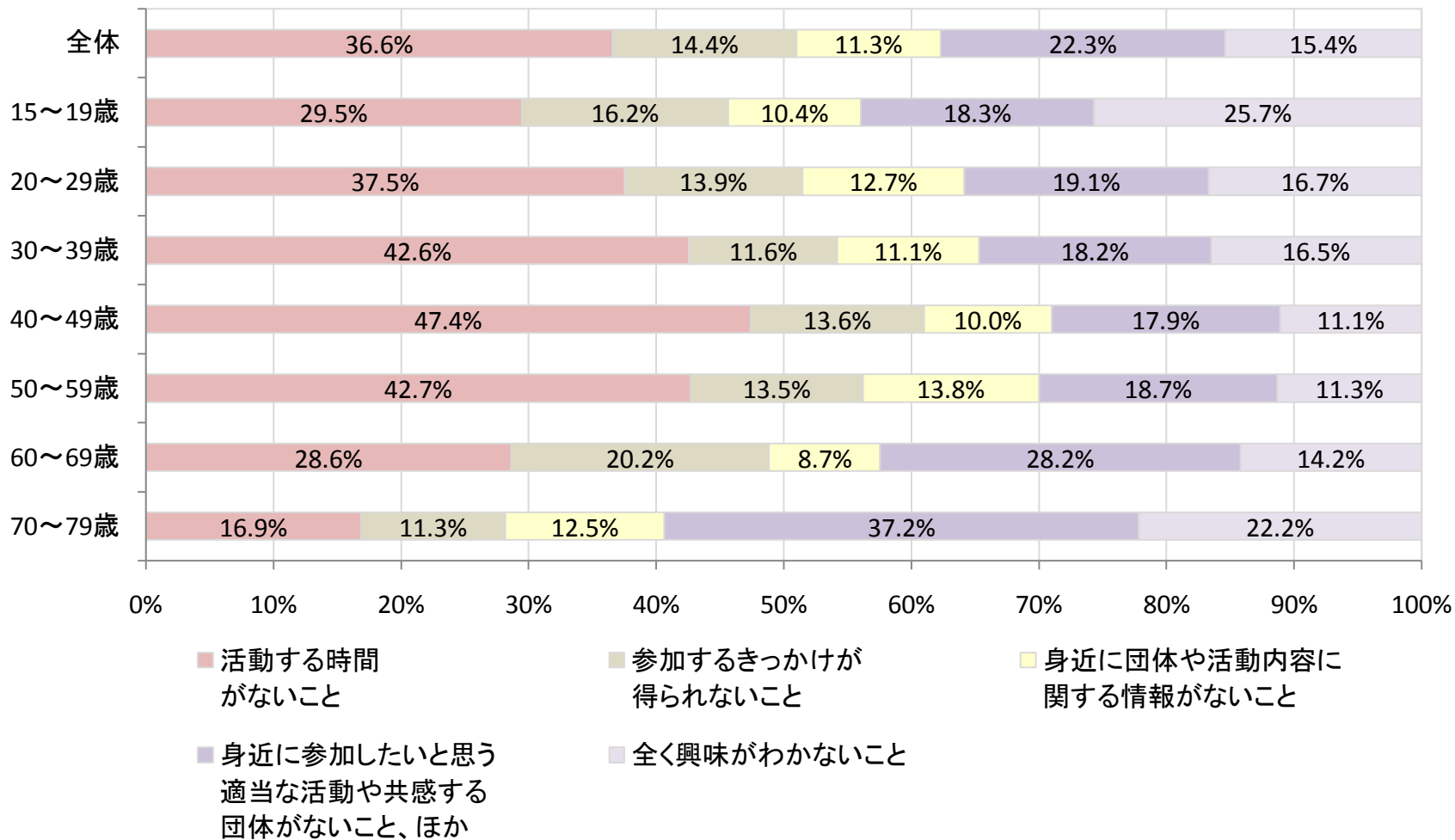


現在、地域活動に参加している人の割合は約1割  
 = 活動の輪を広げる、20～30歳代の参加を





## 参加への阻害要因は活動する時間がないこと



## 4. 滝沢住民による「地域デザイン」活動の振り返り

## ① 「地域デザイン」が目指したもの

滝沢村の地域に暮らす、すべての人々が「このような地域にしたい」という思いを将来像に描き、住民と行政との協働まちづくり

= 地域まちづくりの萌芽

10地区ごとの地域資源・地域特性を活かした

住民発意の地域まちづくり

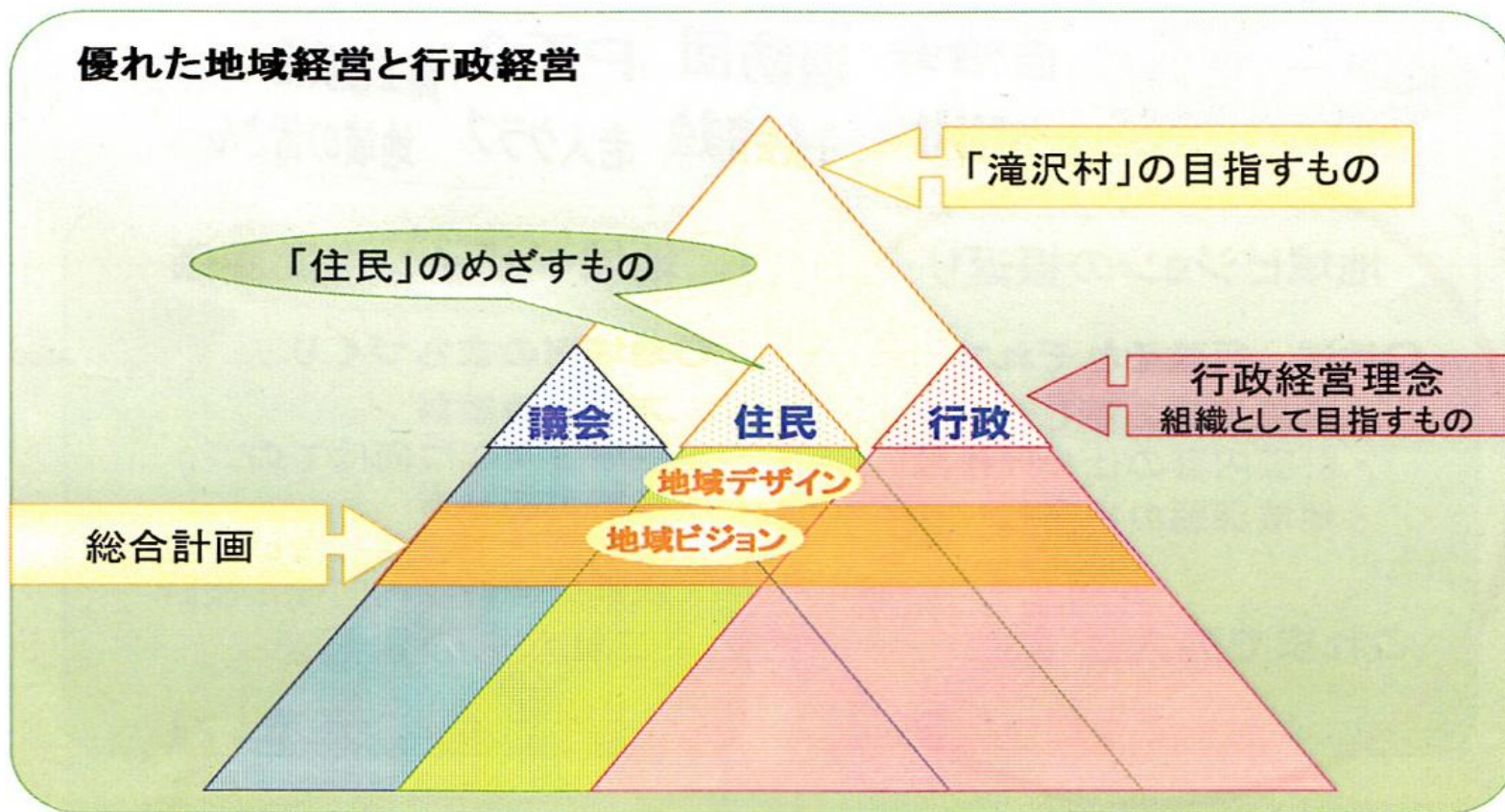
= 地域の豊かさの追求

地域住民による、地域のことは、住民自らの意思で決定し、その成果に自らが責任を持つこと

= 地域力・住民力による住民自治の醸成

「地域デザイン」を拠り所にした、総合計画など計画体系  
＝ボトムアップ型地域まちづくり

## 住民主体の地域経営

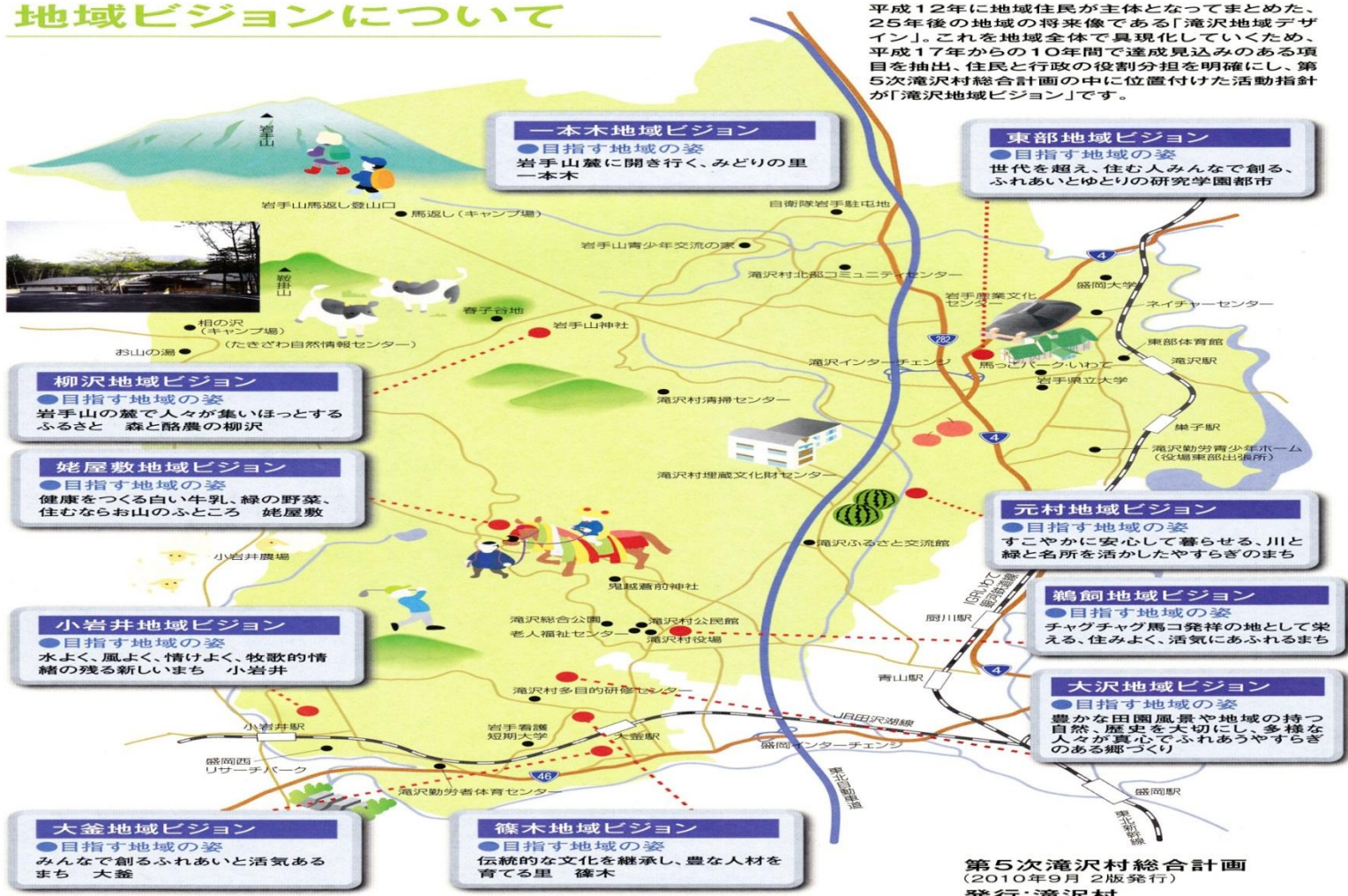




## ② 10地区の「地域デザイン」推進活動

### 地域ビジョンについて

平成12年に地域住民が主体となってまとめた、25年後の地域の将来像である「滝沢地域デザイン」。これを地域全体で具現化していくため、平成17年からの10年間で達成見込みのある項目を抽出、住民と行政の役割分担を明確にし、第5次滝沢村総合計画の中に位置付けた活動指針が「滝沢地域ビジョン」です。



第5次滝沢村総合計画  
(2010年9月 2版発行)  
発行:滝沢村

### ③ 「地域デザイン」推進成果

#### 小岩井地域

主要道路「通称名標示看板設置事業・道路筋防犯灯設置事業など、自治会とまちづくり委員会の連携

#### 大釜地域

八幡館山歴史看板設置事業、八幡館山の環境整備事業など自治会とまちづくり委員会との協働のしくみづくり

#### 篠木地域

スマイルハート挨拶運動事業、田村神社環境整備事業など様々なノウハウを持った人との連携

#### 大沢地域

せせらぎ水路整備事業、ごみ分別推進事業、心安らく里づくりなど、地域のつながりが強く活動も活発

#### 鶉飼地域

伝承継承事業、諸葛川美化推進事業、チャグチャグ馬コ行進路アヤメ植栽事業など、4自治会との連携強化

姥屋敷地域

姥屋敷マイロード事業、防災用水路整備事業など、自治会  
とまちづくり委員会の連携

元村地域

子供たちによる水生生物調査、河川清流化推進事業、EM  
菌の栽培事業など、9自治会の連携による活動展開

東部地域

高齢者のセフティネット形成事業、植物で安らぎの地域づ  
くり推進事業、新住民の多い地域、4自治会の連携

柳沢地域

景観形成住民協定づくり事業、地域ツーリズム研究会、大  
豆の会など、3つの部会によるまちづくり活動

一本木地域

通学路苦痛安全看板設置事業、通学か枝切り事業、防雪  
ネットセット事業など、3つの部会によるまちづくり活動

## ④ 自治会力「これからの自治会の在り方」提言

たくさんの自治会活動に参加する状況を目指します

- ・ 隣近所や班単位の付き合いを深めます。

自治会の現状の取り組みに対して、広く正しくご理解をいただきます

- ・ 周知案内、使用媒体、タイミング、組織・人材の改善活動を進めます。

地域貢献の場として魅力ある自治会となります

- ・ 情報に基づく企画立案、企画立案の担い手の育成・発掘、負担の分散、情報開示を進めます。

住みよい地域環境を保つため、行政任せではなく地域でできる事を見極めます



## 5. 地域自治の取り組み事例ー藤沢市地域経営会議ー

## ① 地域経営会議とは

### 目的

市内13地区毎に、「地域住民が自ら住んでいる地域の課題を解決していく」ために、地域まちづくりの方向を決られるシステム、住民自治の仕組みをつくりあげる。

※13地区の人口は、1～5万人の単位

### 活動

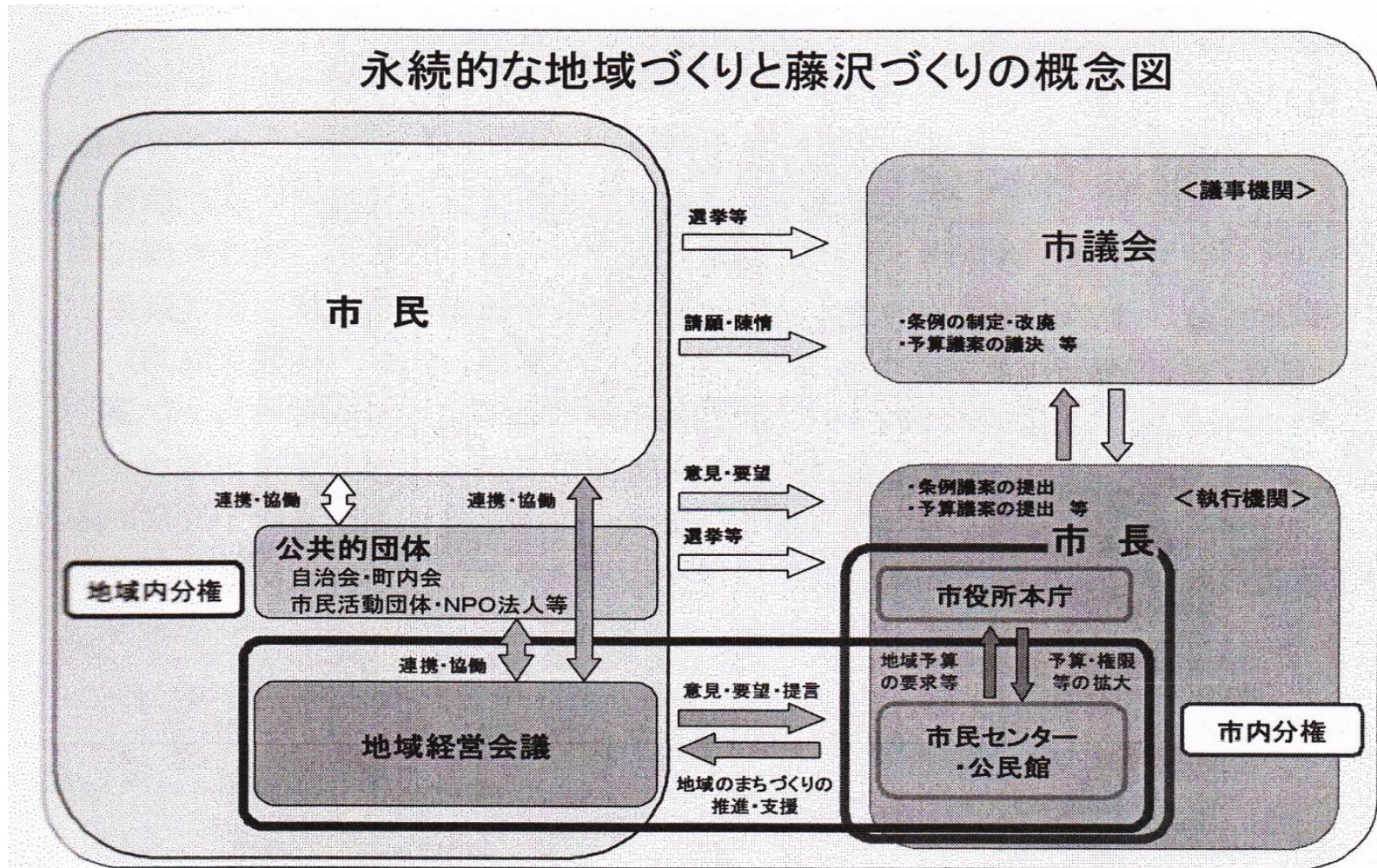
- ①地域自治の拠り所として、地域の在り方や将来の方向性の検討
- ②総合計画、地区別まちづくり計画、実施計画の策定  
(=地域まちづくりの推進)
- ③地域の特性に基づく事業の企画・実施

### 構成

地区内の町内会・自治会、地域活動団体、NPO、商店会、公募市民などで構成（20名～40名）



## ② 永続的な地域づくりと藤沢づくりの仕組み



※ 永続的な地域づくりと藤沢づくりを進めるしくみを、基本的な概念図として表現したものです。

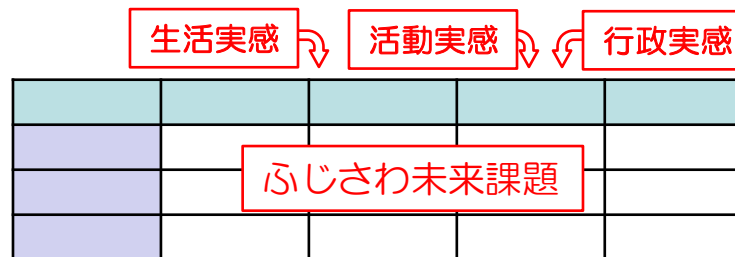


### ③ 「ふじさわ未来課題」を実現する取り組み

**【ふじさわ未来課題の整理表を作成】**

地区・領域から集めた生活実感・活動実感、行政実感を、相乗効果が出るように活用するために、一つの枠組みに整理します

(深掘り時に活用するために、もとの発言や出所がわかるようにしておきます)



全市版

13地区版

**【地域ごとのメリハリ】**

全市調査を行い、地域ごとにメリハリ付けをします

(※ 統計的アンケート調査を実施)

	A	B	C	D
	E	F	G	H
	I	J	K	L

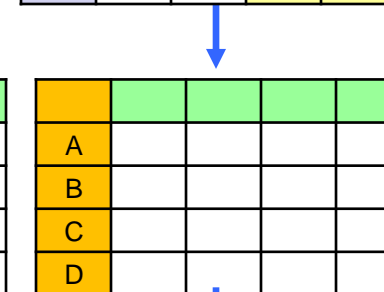
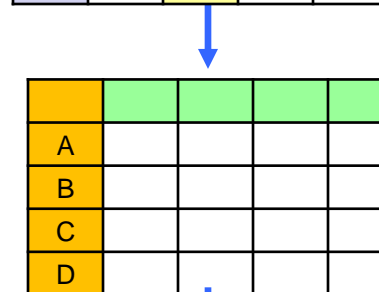
	A	B	C	D
	E	F	G	H
	I	J	K	L

	A	B	C	D
	E	F	G	H
	I	J	K	L

**【まちづくり指標の設定】**

“気づき”の深掘りを経て、「ふじさわ未来課題」に取り組む際の「まちづくり指標」を設定します

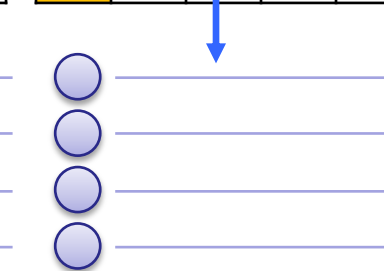
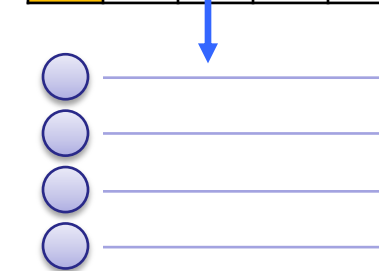
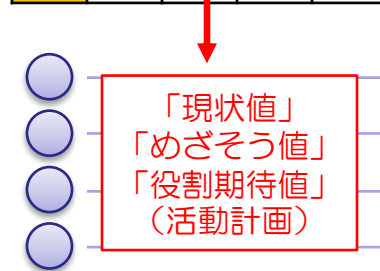
ふじさわ未来課題



**【指標達成への取り組み方を設定】**

「まちづくり指標」の目標設定とその達成に向けた主体と活動の計画を設定します

まちづくり指標



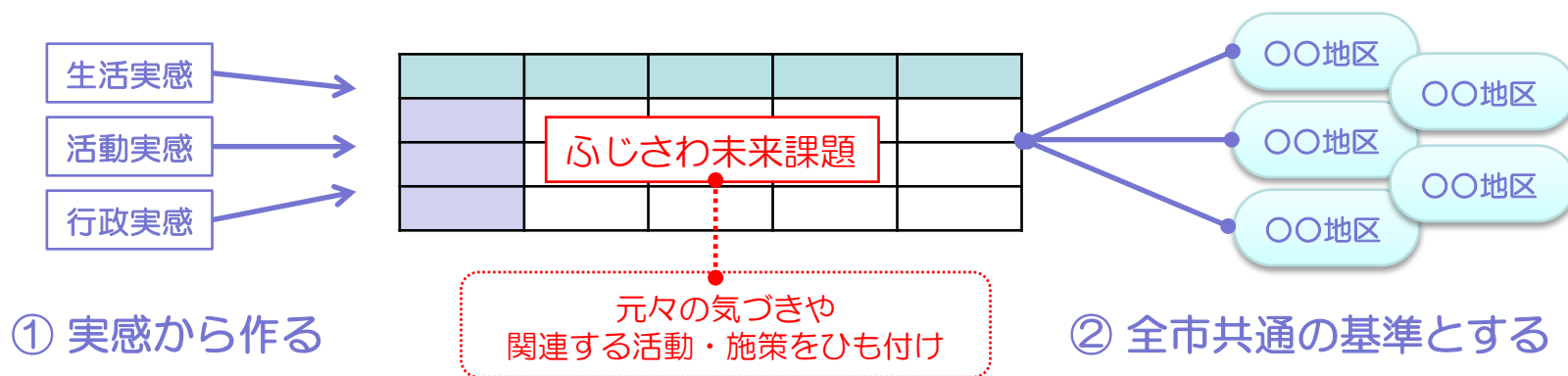
【ふじさわ未来課題の考え方】

① 既存の枠組みや建前からではなく、「実感（気付き）」からつくる

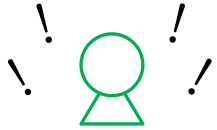
- ⇒ アンケート、委員会、会議などで得られた気づきを体系化して整理
- ⇒ 12,365件のアンケートの回答（5問分）を、59,119個の箇条書きに分解し、気づきから伺える「理想の状況」450個を抽出。これからふじさわ未来課題を導く。

② 13地区がバラバラにならないよう共通の言語・目標・基準とする

- ⇒ 全市的な視点での検討や他地域との協力がしやすいように、抽象度をあげて、行政・地域・市民が使える共通の表現フレーズし、分かりやすいようマトリックス表に整理



① 丹念に「気づき（活動実感・生活実感・行政実感）」を収集



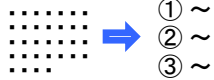
- ・ 気づきアンケート13400件回収（有効回答12365件）  
⇒ 発言数：42095発言
- ・ 100人委員会と地域経営会議による調査、庁内プロジェクトやワイがや会議の調査、ワールドカフェのログ、電子会議室やDPでの発言、市民活動団体の活動理念調査、過去の各種調査…等から収集

「気づき」の調査の例（100人委員会の場合）

1. 最近実感した、藤沢市内での何か良いこと、楽しい・うれしい・心地よい経験
2. 藤沢市で生活／活動をしていて、気づいたこと、気になったこと
3. あなたの地区・領域の魅力・自慢・伸ばすこと
4. あなたの地区・領域の改善すべきこと
5. この先「藤沢市で暮らす・活動する中でこんなことができたらなあ」と思うこと

情報を活用しやすくするために加工

② 藤沢の「未来の状態」として表現を整理



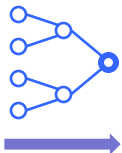
- ・ 様々な発言を集約するために、元の文章より、藤沢の「未来の状態」として箇条書きに整理  
⇒ 抽出数：59,119件

深掘りでの活用

気づきで寄せられた発言は「ふじさわ未来課題」を作る段階と、次の深掘りによる具体的な「地域まちづくり計画」段階で活用する

類似する発言を集約

③ 類似の発言をまとめた「未来課題の種」の作成



- ・ 類似の発言を束ねる作業より、その共通性を確認し、抽象度を高めた「未来課題の種」を検討して再び集約  
⇒ 集約数：450件

マトリックスの見出しづくり

先行回収3000件から204の「未来課題の種」を仮抽出し、100人委員会で分類グループの見出し案を作成（2/27）

基本構想で示された「藤沢づくりの方向性」と100人委員会での検討を基に作成した課題区分より「マトリックス（整理表）」の見出しを作成



④ 「未来課題の種」と「藤沢づくりの方向性」を結び付ける「マトリックス」に分類

【都市ビジョン1】 市民の力が育てる 生活充実都市	【都市ビジョン2】 地域から地球に広がる 環境行動都市	【都市ビジョン3】 さらなる可能性を追求 する創造発信都市
---------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------------

藤沢づくりの 方向性  課題区分	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	
	地域自律 型の「藤沢 づくり」を育 むまち	明日の藤 沢を担う 「藤沢の子 どもたち」 を育む環 境	市民力・地 域力による 安全で安 心して暮ら せるまち	共に生き、 共に創る地 域社会の 創出	豊かな地 域資源の 次世代へ の継承・発 展	地球温暖 化防止など 未来の地 球環境へ の投資	「藤沢づ くり」を支 える都市構 造の再構 築と地域経 済の活力 再生	公共資産 の維持管 理と有効活 用	「藤沢ライ フスタイル」 と「湘南カ ルチャー」 の創出	
生活	(A) 市民生活 の安定	38	103	545	90	47	33	42	38	62
	(B) 市民生活 の豊かさ	37	127	651	34	111	27	29	88	149
活動	(C) 持続的 活動	11	40	153	23	60	12	9	14	25
	(D) 創造的 活動	12	19	56	15	16	4	4	15	35
基盤	(E) 交流基盤	15	107	314	30	14	0	7	9	25
	(F) 活動環境 の整備	30	189	315	47	25	20	17	21	45

気づきの収集～整理～集約の結果から作成した「未来課題の種」を、100人委員会でマトリックスに分類 (3/27)

マトリックスへの分類の過程

1. 「未来課題の種」が書かれた450枚のカードを準備
2. 地区グループは方向性を2つ、領域グループは方向性3つ選び、450枚のカードを該当するマスに分類
3. 複数のマスに入りそうな場合はカードを複製して分類

【「未来課題の種」の分類作業結果（マスごとの配分数）】



分類結果を基に「ふじさわ未来課題」の作成へ



めざす方向性 課題領域		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
		地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち	明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境	市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち	共に生き、共に創る地域社会の創出	豊かな地域資源の次世代への継承・発展	地球温暖化防止など未来の地球環境への投資	「藤沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生	公共資産の維持管理と有効活用	「藤沢ライフスタイル」と「湘南カルチャー」の創出
生活	(A) 市民生活の安定(安定・落ち着き・安らぎ)	1 身近な地域での暮らしやすさが実現していること	8 市民自ら、人にやさしい手をさしのべること	17 保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整い暮らしやすいこと	24 挨拶や声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること	35 まちと自然環境の調和がとれていること	46 生活の便利さと環境保全の両方が実現していること	56 身近に親しみや愛着のもてる景観があること	66 市民の財産である自然を守り、育てられていること	73 活気があり、開放的で温かいまちであること
	(B) 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	2 市民が自慢できるまちであること	9 子どもを安心して育てられる環境があること	18 災害に対して、市民が不安なく暮らせるまちであること	25 生活環境を守るために地域でまとまりがあること	36 誰もが快適に暮らせ、居心地のいいまちであること	47 みんなが協力して、いつでもまちがきれいであること	57 すべての世代がのびのび・いきいきと活躍していること	67 移動や利用にあたり、誰でも利用できる道路や施設であること	74 いつも自然の豊かさを感じられていること
活動	(C) 持続的活動(伝える・維持する)	3 市民自らが藤沢を良くする活動に積極的であること	10 子どもが、住んでいる地域に誇りをもち、地域で暮らし続けていること	19 治安の良い環境であること	26 子育て世代を支える環境が充実していること	37 市民、地域、行政が協力し、快適な生活が実現していること	48 豊かな緑に囲まれた生活が出来ていること	58 地域の特徴が活かされたまちであること	68 日常生活に安らぎや豊かさを与えてくれる場所があること	75 豊かな地域資源を宝に、楽しい体験ができるまちであること
	(D) 創造・推進活動(発展・チャレンジ)	4 藤沢市で活用できる様々な資源を有効活用していること	11 地域の歴史文化を教育活動に活用すること	20 安全・安心を高める活動が盛んであり、ボランティアの精神が高いこと	27 お互いの個性が尊重されていること	38 イベントや物産品などの地域ブランドが定着していること	49 人々の環境への意識が高く、快適なまちであること	59 安全で安心な食べ物が身近で得られること	69 市民が利用する身近な施設が大切にされていること	76 訪れる人・住む人に配慮した心遣いや工夫があること
基盤	(E) 交流基盤(交流・つながり・連携)	5 地域で協働して、暮らしやすいまちづくり活動が行われていること	12 地域協働で、教育や人材育成に熱心であること	21 市民が協力しあい、安心して住みやすいまちであること	28 地域のための一人ひとりの活動が大切にされていること	39 身近にある緑が適切に保全されていること	50 市民の環境美化への意識を高める工夫がされていること	60 まちに若者が多く、活気があること	69 市民が利用する身近な施設が大切にされていること	77 藤沢の魅力がメディアで発信されていること
	(F) 市民生活の基礎(学ぶ・育む・人材育成・仕組みづくり)	6 誰でも気軽に市内の情報を発信したり、得ることができること	13 地域が子どもを見守り育てる環境であること	22 様々な世代が、快適で住みよいまちであること	29 いろいろな世代、いろいろな国の人たちと交流できること	40 地域にある様々な地域資源が活かされていること	51 先進的な環境対策がなされていること	61 観光により地域が元気になること	70 様々な主体によって、身近な公共の場が維持管理されていること	78 常により良い地域にしようとする住民が活躍していること
基盤	(E) 交流基盤(交流・つながり・連携)	7 お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	14 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	23 様々な世代が、快適で住みよいまちであること	30 お互いにマナーを守り、協力して地域のために活動していること	41 調和のとれた景観づくりが進められていること	52 先進的な環境対策がなされていること	62 産業の活力を高め、地域が元気になること	70 様々な主体によって、身近な公共の場が維持管理されていること	79 市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること
	(F) 市民生活の基礎(学ぶ・育む・人材育成・仕組みづくり)	8 誰でも気軽に市内の情報を発信したり、得ることができること	15 子どもたちが積極的に交流できる場が整備されていること	24 様々な世代が、快適で住みよいまちであること	31 社会的弱者の方が快適に過ごせるまちであること	42 市民同士が協力し合いながら暮らしていること	53 市民・地域が協力して持続可能な環境ができていくこと	63 地域の人材が働ける機会を創造すること	71 多様な連携を通じて、市民が望むサービスが提供されていること	80 市民と来訪者が交流できる機会や場があること
基盤	(E) 交流基盤(交流・つながり・連携)	9 お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	16 子どもたちが身近な生活の中で自然を感じていること	25 様々な世代が、快適で住みよいまちであること	32 人々が交流して、平和でぬくもりのある社会であること	43 子供が大人になっても愛着の持てるまちであること	54 地球環境に優しい手段で移動できること	64 商店街と大型店舗が共存共栄し、活気あるまちになること	72 いろいろな市民の学びの場が充実していること	81 地域の記憶や文化が継承され、発展すること
	(F) 市民生活の基礎(学ぶ・育む・人材育成・仕組みづくり)	10 お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	17 子どもたちが身近な生活の中で自然を感じていること	26 様々な世代が、快適で住みよいまちであること	33 地域の中で学びあう雰囲気があること	44 河川や海岸が市民に開かれていること	55 環境美化活動を支える仕組みがあること	65 市内の交通・物流がスムーズに行われること	73 いろいろな市民の学びの場が充実していること	82 藤沢ならではの取り組みが実現されていること
基盤	(E) 交流基盤(交流・つながり・連携)	11 お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	18 子どもたちが身近な生活の中で自然を感じていること	27 様々な世代が、快適で住みよいまちであること	34 地域で支え合い暮らせる環境であること	45 地域の未来の担い手が育成されていること	66 市内の交通・物流がスムーズに行われること	74 いろいろな市民の学びの場が充実していること	83 子どもから大人まで、文化に触れる環境が整っていること	
	(F) 市民生活の基礎(学ぶ・育む・人材育成・仕組みづくり)	12 お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	19 子どもたちが身近な生活の中で自然を感じていること	28 様々な世代が、快適で住みよいまちであること	35 地域で支え合い暮らせる環境であること	46 地域の未来の担い手が育成されていること	67 市内の交通・物流がスムーズに行われること	75 いろいろな市民の学びの場が充実していること	84 子どもから大人まで、文化に触れる環境が整っていること	

①協働型の課題解決で価値向上へ

②強みや魅力の維持・向上を

③より効果的に価値の維持を

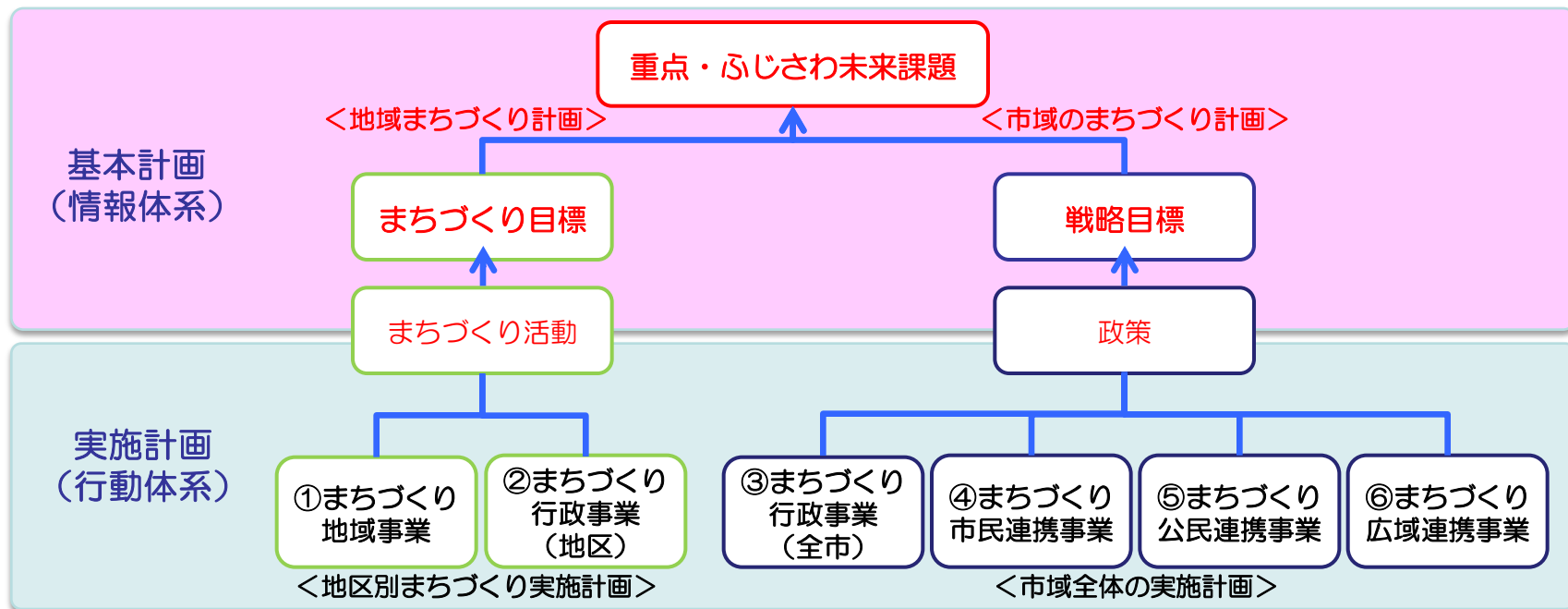
④熟慮と根拠ある未来戦略を



## 市域全体と地域の課題状況（都市ビジョン1）

都市ビジョン1. 市民の力が育てる生活充実都市	全市	片瀬	鵠沼	辻堂	村岡	藤沢	明治	善行	湘南大庭	六会	湘南台	遠藤	長後	御所見
<b>(1) 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち</b>														
1 身近な地域での暮らしやすさが実現していること								○				○		○
2 市民が自慢できるまちであること														
3 市民自らが藤沢を良くする活動に積極的であること														
4 藤沢市で活用できる様々な資源を有効活用していること														
5 地域で協働して、暮らしやすいまちづくり活動が行われていること	○					○					○			
6 誰でも気軽に市内の情報を発信したり、得ることができること												○		
7 お互いがマナーを守り、助け合いの心で過ごせるまちであること	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○
<b>(2) 明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境</b>														
8 市民自ら、人にやさしい手をさしのべること	○													
9 子どもを安心して育てられる環境があること						○				○	○	○		
10 子どもが、住んでいる地域に誇りを持ち、地域で暮らし続けていること														○
11 地域の歴史文化を教育活動に活用すること							○							
12 地域協働で、教育や人材育成に熱心であること														
13 地域が子どもを見守り育てる環境であること				○			○	○	○		○	○		
14 学校・家庭・地域のつながりを育む活動が活発であること	○	○	○		○								○	
15 子どもたちが積極的に交流できる場が整備されていること														
16 子どもたちが身近な生活の中で自然を感じていられること											○			
<b>(3) 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち</b>														
17 保健、医療、福祉、健康などの生活環境が整い暮らしやすいこと			○	○			○				○	○		
18 災害に対して、市民が不安なく暮らせるまちであること	○	○	○		○							○		
19 治安の良い環境であること		○	○			○		○			○	○	○	
20 安全・安心を高める活動が盛んであり、ボランティアの精神が高いこと														
21 市民が協力しあい、安心して住みやすいまちであること														
22 様々な世代が、快適に住みよいまちであること														
23 福祉が充実し、子どもから高齢者まで守られていること	○	○		○	○				○	○				○

基本計画で掲げた「重点・ふじさわ未来課題」と、それを具体化した「地域まちづくり目標（各地区）」  
「戦略目標（市域全体）」の実現へと前進するために、具体的に実施することが「まちづくり事業」です。



#### ◆ 「まちづくり事業」を検討するときのポイント

- (1) 「地域まちづくり目標」「戦略目標」の実現に貢献し、その結果、「重点・ふじさわ未来課題」の実現へと前進するものを掲げます
- (2) 共通の「まちづくり活動」や「政策」のもとで、複数の「まちづくり事業」を検討します
- (3) 様々な組織・団体・個人が連携しながら、それぞれが主体的に進めるものを検討します
- (4) よりよい成果を実現することや、地域協働を推進するために、様々な組織・団体・個人等から相互に共感や協力が得られるものを検討します

# 鵠沼地区



**1 マツ並木の続く住宅地**  
旧日清製粉の別荘の名残の松並木。皇后陛下美智子様がまだ幼かった頃、訪れたとも言われます。



**2 石垣と松並木を新しい住宅地 海辺の住まい**  
敷地際の石垣と松並木を残し、住むひとにも周辺環境にも配慮された住まいとなっています。



**5 皇大神宮鎮守の森**  
藤沢で最古とも言われる皇大神宮のお祭りは、楠木正成などの人形山車で賑わいます。

## コラム

現在の鵠沼市民センターの裏あたりに、旅館東家があり、芥川龍之介、武者小路実篤らが度々訪れていました。現在も碑が残ります。温暖な気候から結核の療養地ともなっており、岸田劉生の麗子像は、療養中のこの地で描かれました。



**3 海岸線のまちなみ**  
マツの防砂林、高さの揃った建物、海岸線が一望できる、湘南を象徴するドライブコース。



**4 風情ある住宅地を走る江ノ電**  
江ノ電の柳小路駅から鵠沼駅の間の沿線の住宅は、緑が豊かで、のどかなまちなみ。



**6 鵠沼海岸**  
海岸には、その日、その時の天候や気温、風によって、空や、海の色にも変化があります。



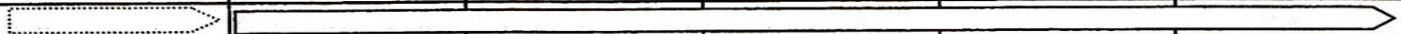
**7 緑豊かな遊歩道(引地川)**  
ジョギングやウォーキングをする人などが行き交う、静かで緑豊かな、海まで続く散歩道。



○鵠沼地区地域まちづくり事業

事業名							防犯活動推進事業							
体系コード			事業区分		まちづくり地域事業									
1-3-19-05-5-1			地域分権区分											
事業内容			地区防犯協会, 各自治会町内会パトロール隊, 青少年育成協力会, 鵠沼おやしパトロール隊, 藤沢警察署, 安全安心ステーション等が犯罪ゼロをめざし, パトロールや見守り活動に励んでいます。これらの防犯活動を再検討し, より効果的な活動をめざします。 1 犯罪抑止の地域環境づくり 2 学校における防犯対策の充実 3 地区の犯罪特性に対応した施策の推進 4 防犯推進体制の工夫 5 防犯意識の向上, 防犯情報の提供 6 防犯ボランティアの育成											
活動指標			防犯パトロール隊結成数(累計)											
目標値			現状値		37団体		3年後目標値		57団体		6年後目標値		57団体	
実績値			H23				H24				H25			
役割期待			地区内のすべての防犯活動が対象であり, 役割は1つの団体にとらわれず, 地域経営会議が主体となり, 地域団体(防犯協会等)・学校・市と連携し実施します。											
事業スケジュール			第1期			第2期		第3期		第4期				
(地域)			H23		H24		H25							
(市域全体)			実施		→		→		→		→		→	
期待される事業の成果			「市民力, 地域力で犯罪ゼロのまち」及び「防犯活動の充実」の達成に寄与します。											
担当部課			市民自治部鵠沼市民センター											

○鵠沼地区地域まちづくり事業

事業名							交通危険箇所マップ事業							
体系コード			事業区分		まちづくり地域事業									
1-3-19-06-6-1			地域分権区分											
事業内容							地区交通安全対策協議会・交通安全母の会・藤沢警察署・交通安全協会等を中心に、交通事故のないまちづくりに努めており、交通事故ゼロをめざし、鵠沼地区の対策として、交通危険箇所マップを作成します。 また、作成に当たっては、地区交対協・各校外委員等に協力を求め、交通危険箇所を明らかにし、道路等のハード面での改善を図ります。 1 交通危険箇所の調査 2 交通危険箇所マップの作成							
活動指標							マップ作成の協力者数(累計)							
目標値			現状値		0人		3年後目標値		50人		6年後目標値		50人	
実績値			H23				H24				H25			
役割期待							地区内のすべての交通安全活動、団体が対象であり、役割は1つの団体にとらわれず、地域経営会議が主体となり、地域団体(交対協等)・学校・市と連携し実施します。							
事業スケジュール							第1期		第2期		第3期		第4期	
(地域)			H23		H24		H25							
														
(市域全体)			検討・計画		実施		→		→		→		→	
期待される事業の成果							「交通事故のない安全安心のまち」及び「交通安全対策の充実」の達成に寄与します。							
担当部課							市民自治部鵠沼市民センター							

## 6. 滝沢で「住民自治日本一」を目指すためには

## Q1. 住民自治とは？

地方の行政が、その地域住民の意思と責任  
に基づいて処理されること

自らの地域のことは、住民自らの意思で決定し、  
その成果についても責任を持つこと

## Q2 住民自治日本一とは？

日本で一番、地域社会の成果（アウトカム）を  
生産性高く実現していること

地域社会の成果  
（アウトカム）

「滝沢ハッピーネス（暮らしやすさ、幸福感、生活価値、働きやすさ…）」の実現

地域社会の生産性

アウトカム（成果）  
-----  
インプット（投入資源・ 組織・活動）



## Q2 住民自治日本一とは？

日本で一番、地域社会の成果（アウトカム）を  
生産性高く実現していること

生産性が高いとは？

インプットを効果的に活用して、高いアウトカムを実現する

高い生産性を  
実現するには？

- ① アウトカム（＝滝沢ハッピーネス）を把握し、
- ② 実現のための効果的な自治体経営の仕組みづくりと、
- ③ 行政（＝住民から委託されてまちづくりの実施や支援を行う主体）の組織力の発揮が重要

■ Q3 滝沢で住民自治日本一を実現するには？ ■

- ① 「滝沢ハッピネス」の把握と追求を行うこと
- ② 効果的な自治体経営の仕組みづくりがされること
- ③ 行政の組織力が発揮されること

(1) 「滝沢ハッピーネス」の把握

1: 「滝沢ハッピーネス」を体系化するために「ライフステージ」と「生活価値の向上シーン」の組み合わせたマトリックスを作成

生活価値の向上シーン

- A 「絆・つながり・信頼（生活の基盤）」
- B 「安全・安心・居住（生活の環境）」
- C 「環境・アメニティ（生活の質）」
- D 「楽しむ・エンジョイ（生活の豊かさ）」

ライフステージ

- ① 幼児・学童・青年期  
(0~17歳)
- ② 若者・成人期初期  
(18歳~39歳)
- ③ 壮年期  
(40歳~64歳)
- ④ 高齢期  
(65歳以上)

	絆・つながり 信頼	安全・安心 居住	環境 アメニティ	楽しむ エンジョイ
子育て 子ども				
仕事 経済 家庭				
ゆとり 生活 家庭				
高齢者				


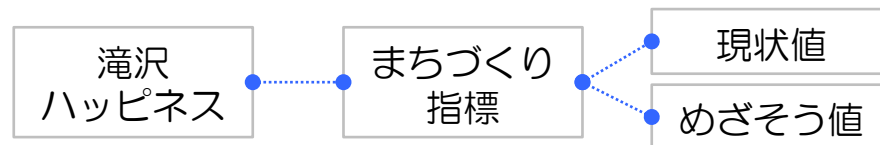
## (1) 「滝沢ハッピーネス」の把握

2：マトリックスの各セルに入る要素を検討し、現状を把握する  
 (「滝沢ハッピーネス」の体系と現状を説明可能とすることで活動の根拠に)

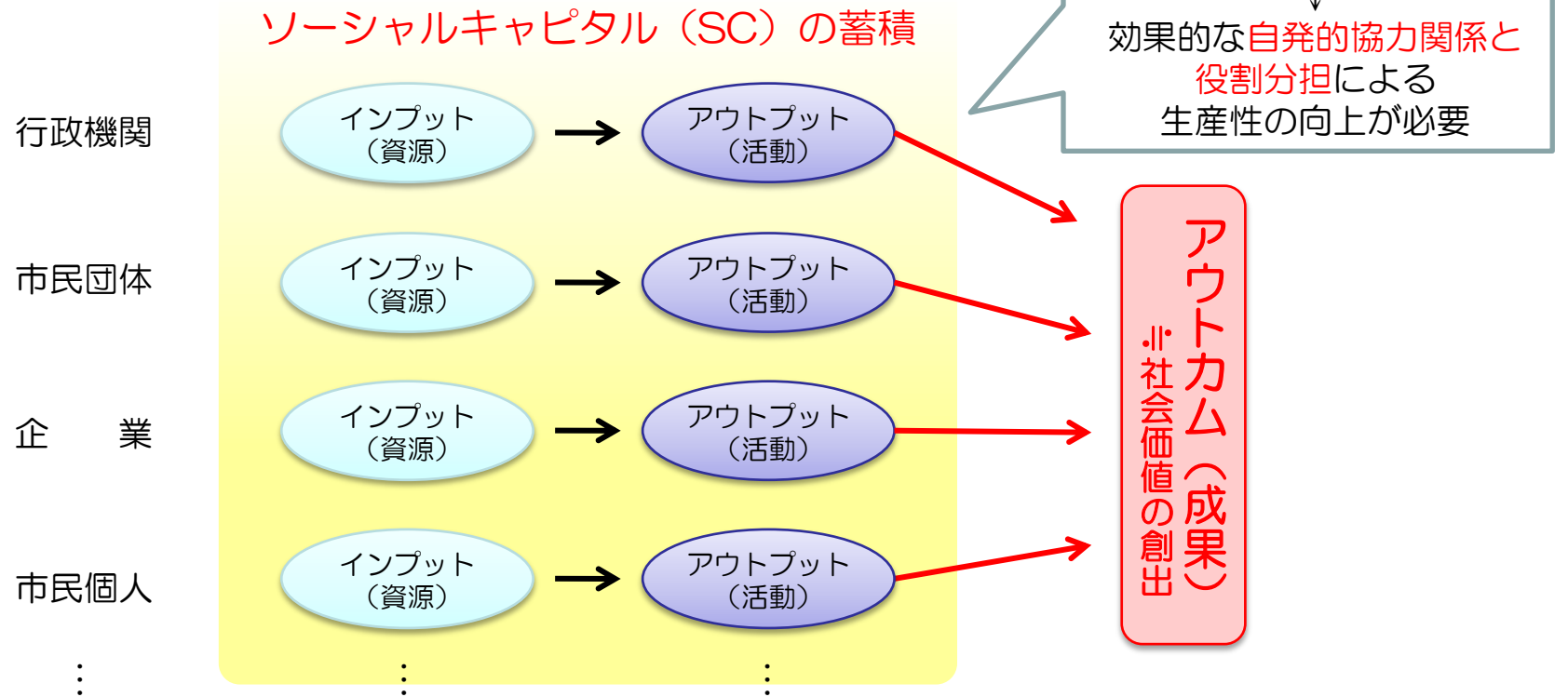
- ① プロジェクトチーム主導で現状診断  
 (幸福度基礎調査、統計データ)  
 何で測れば良いかなど、インタビューなどで検討する
- ② 住民主導で「滝沢ハッピーネス」を検討  
 (①を参考に、各セル単位で)
- ③ 「まちづくり指標」の設定  
 (②を評価するもの)
- ④ 現状値測定  
 (③の現状把握)
- ⑤ 4年後8年後にたどり着きたい水準としての  
 「めざそう値」を測定  
 (実務家・関係者に④を踏まえた意見聴取)

	絆・つながり 信頼	安全・安心 居住	環境 アメニティ	楽しむ エンジョイ
子育て 子ども				
仕事 経済 家庭				
ゆとり 生活 家庭				
高齢者				

各セルごと  
に作成

(参考)  
「社会におけるアウトカム実現の生産性をあげるには？」



- ③ SCが蓄積することで 自発的協力関係 と 効果的な役割分担 を生み出しやすくなる  
＝ 高いアウトカムを実現する生産性が上がる

## ② 「地域デザイン」から「滝沢ハッピネス」へ

地域力・住民力による、10余年におよぶ「地域デザイン」活動の成果 = 高い住民自治と地域の絆・つながりの醸成

「地域デザイン」活動は地域の豊かさ、地域社会の幸福度の実現の追及

「地域デザイン」活動の成果を基に、次のステップとして「滝沢ハッピネス」の把握と追及を